

# TECHNICAL DATA

仕上りの種類	水系結露防止塗材仕上げ
製品名	ケツロナイン

下塗材：アクリル樹脂エマルジョン系下塗材  
「ケツロナイン ペフ用プライマー」

第7版 作成日： 2018年8月23日



**菊水化学工業株式会社**

# 標準施工仕様書

- 仕上げの種類 : 水系結露防止塗材仕上げ
- 製品名 : ケツロナイン
- 適応素地 : ポリエチレンフォーム
- 部位 : 折半屋根天井面
- 仕上がり形状 : 平吹き状模様・小凹凸状模様・ゆず肌状〔ローラー〕模様

## 【各種共通】

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間	所要量
素地調整	ゴミ、未硬化セメント粉末、砂塵、油脂分などの付着物をワイヤーブラシ、かわすき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする。				
下塗り	ケツロナイン ペフ用プライマー 主材：17kg 無希釈	刷毛 ウールローラー等	1	3以上	113～170 m <sup>2</sup> /17kg 0.1～0.15kg/m <sup>2</sup>

※改装で、ポリエチレンフォームの劣化が激しい場合は、張り替えをして下さい。

## 【平吹き仕上げ（平吹き状模様）】

工程	材料・調合	施工用具・条件	塗回数	間隔時間	所要量
主材塗り	ケツロナイン 主材：18kg 清水：0～1.0 L	リシガン 口径：4～6mm 吹圧：0.5～0.6MPa	1	—	15～23 m <sup>2</sup> /18kg 0.8～1.2kg/m <sup>2</sup>

## 【ソフト仕上げ(小凹凸状模様)】

主材塗り	基層塗り	ケツロナイン 主材：18kg 清水：0～1.0 L	リシガン 口径：4～6mm 吹圧：0.5～0.6MPa	1	4以上	23～30 m <sup>2</sup> /18kg 0.6～0.8kg/m <sup>2</sup>
	模様塗り	ケツロナイン 主材：18kg 清水：0～1.0 L	リシガン 口径：4～6mm 吹圧：0.2～0.3MPa	1	—	36～60 m <sup>2</sup> /18kg 0.3～0.5kg/m <sup>2</sup>

【ローラー仕上げ（ゆず肌状〔ローラー〕模様）】

主材塗り	ケツロナイン 主材：18kg 清水：0～0.5 L	多孔質ローラー	1 ┌ 2	工程内 24時間	15～18 m <sup>2</sup> /18kg 1.0～1.2kg/m <sup>2</sup>
------	---------------------------------	---------	-------------	-------------	--

- 注1 改装で、ポリエチレンフォームの劣化が激しい場合は、張り替えをして下さい。
- 注2 施工用具・条件は代表的なものです。
- 注3 間隔時間・所要量の値は標準的なものです。施工方法・器具、被塗物の形状、素地の状態、施工条件により各々多少の幅を生じることがあります。  
また、ケツロナインは吸水性が高いため、希釈時の水量は気温・湿度などの影響を受けやすく、施工時の環境によって変動します。塗装時は標準施工仕様書を基準に調整してください。
- 注4 所要量の確認は塗見本との比較または単位体積当たりの使用量で確認して下さい
- 注5 所要量は施工時のロスを含んだ量で、塗付量はロスを含まない実際に塗付けられる量です。詳細な定義はJASS18を参照してください。
- 注6 多孔質ローラーでの増し塗りする場合は、増し塗り塗装前に適度な水湿しを行ってください。水湿し面の水が引いたのち、主材塗り見本と同様となるように注意して、施工を行なって下さい。  
(ケツロナインは吸水する特徴があるため、主材（1層目）を適度に湿らせた方が安定した仕上がり形状（パターン）を得られやすい材料です)

● 荷 姿

下塗材： ケツロナイン ペフ用プライマー NET： 17 kg/缶  
主 材： ケツロナイン NET： 18 kg/缶

# 成分表

●下塗材：ケツロナイン ペフ用プライマー

内 容	重 量 (%)
変性アクリル樹脂エマルジョン	100.0
計	100.0

●主 材：ケツロナイン

合成樹脂エマルジョン	15.5
シリカゾル	2.3
水	36.3
白色顔料	4.1
吸放湿調整剤	29.9
忌避性充填剤	6.4
添加剤	5.5
着色顔料	適宜
計	100.0

# 性能試験成績書

仕上の種類	水系結露防止塗材	
製品名	ケツロナイン	
供試材料	下塗り：カビフージ A 主材塗り：ケツロナイン	
試験方法	JIS A 6909-2014に準拠	
項目	規	結果
低温安定性	塊がなく組成物の分離・凝集がない。	合格
初期乾燥によるひび割れ抵抗性	ひび割れがない。	合格
付着強さ	標準状態 0.3N/mm <sup>2</sup> 以上	0.6
耐洗浄性	剥がれ及び摩耗による基板の露出がない。	合格
耐衝撃性	ひび割れ、著しい変形及び剥がれがない。	合格
耐アルカリ性 A法	割れ、膨れ、剥がれ、軟化、軟化溶出がなく、浸されない部分に比べて、くもり及び変色が著しくない。	合格
耐変退色性	ひび割れ、剥がれがなく、変色がグレースケール3号以上とする。	合格

## 【防露性試験・防黴試験・凍結融解試験・難燃性試験】

項目	試験方法	結果
防露性	JIS A 6909に準拠 (g/n <sup>2</sup> 、1mm厚)	600
かび抵抗性	JIS Z 2911に準拠	かびの発育なし
凍結融解性	ASTM C 666に準拠 (40サイクル)	異常なし
難燃性	難燃1級表面試験に合格すること。	合格

## 【発泡ポリエチレン下地に対する性能試験】

項目	試験方法	結果
付着強さ (標準状態)	JIS A 6909-2014に準拠	1.9N/mm <sup>2</sup> (下地凝集破壊)
付着強さ (結露サイクル後)	JIS A 6909-2014に準拠	1.5N/mm <sup>2</sup> (下地凝集破壊)
結露サイクル試験	JIS A 6909-1995に準拠 (10サイクル)	異常なし

※発泡ポリエチレン下地に対する性能試験は、下塗材に「ケツロナイン ペフ用プライマー」を用いた。

\*上記数値は代表値であり、製品の数値等を保証するものではありません。あらかじめご了承ください。

# 施工にあたっての要点

## ●下地

- 【1】 改装で、ポリエチレンフォームの劣化が激しい場合は、張り替えをして下さい。
- 【2】 旧塗膜の浮き・剥がれ・チョーキング層等は除去してから施工して下さい。
- 【3】 シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。詳しくは弊社営業所までお問い合わせ下さい。

## ●施工

- 【1】 色・模様決定に当たっては、原則として塗見本を作製して、工事監理者の承認を受けて下さい。
- 【2】 塗見本は、必要に応じて工程ごとに手順が分かるものとします。
- 【3】 所定の塗付量に達しない場合や超えてしまう場合には、種々の欠陥を生じる場合があります。所定の塗付量を守って施工して下さい。

## ●材料

- 【1】 材料は直射日光下及び0℃以下での保管は避けて下さい。
- 【2】 溶剤系の製品を取り扱う場合は特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。
- 【3】 施工時は換気を十分行なって下さい。

## ●工法

### 1. 材料の取扱い

- 【1】 製品は使用前に均一にミキサーで混ぜ合わせて下さい。
- 【2】 希釈の必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量、適切な方法で均一に薄めて下さい。
- 【3】 2液形の製品は、主材と硬化剤を指定の比率で調合し、ミキサーで混ぜ合わせて下さい。特に小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。混合後の製品は、可使時間以内に使い切ってください。また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。
- 【4】 既調合タイプの材料を希釈したり、他の材料と混合しないで下さい。
- 【5】 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート、旧MSDS）を参照して下さい。

### 2. 下塗り

- 【1】 下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付けて下さい。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付して下さい。

### 3. 主材塗り

- 【1】 主材塗り見本と同様となるように注意して、施工を行なって下さい。

### 4. 上塗り

- 【1】 上塗材は、2回塗りを標準とし、色むら、だれ、光沢むらのないよう均一に塗り付けて下さい。
- 【2】 上塗材の希釈率は試験塗りなどにより決定し、それ以降は同一の希釈率で使用して下さい。希釈率は色相及び施工時の気温により変化します。

## 5. 施工方法

【1】 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工して下さい。

### ●施工管理

【1】 施工場所の気温が 5°C 以下、湿度が 85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生じることがありますので、施工を避けて下さい。

【2】 降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けて下さい。

【3】 直射日光下で施工する場合は、適切な養生をし、下地表面の急激な温度を上昇を防止して下さい。

【4】 施工しない箇所はあらかじめ養生をし、その他の材料が付着しないようにして下さい。

### ●その他の注意事項

【1】 施工器具等の洗浄水が、河川に流出したり、土壌にしみ込まないようにして下さい。

【2】 磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行って下さい。

【3】 刷毛、ローラー、スプレー等、施工方法により若干の色相差を生じることがあります。

【4】 軽量モルタル、ALC パネル、高断熱型窯業系サイディング及び発泡ウレタンなどに施工する場合は、蓄熱したり、水の影響や、下地の状態、塗装時の環境など条件により、塗膜の膨れ、はがれなどが生じることがあります。

【5】 JIS A 6909 建築用仕上塗材 複層仕上げ塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、JIS 規格品ではありません。

【6】 艶調整品は被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率により、つやが異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所ですら艶ムラを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工して下さい。

【7】 濃色や原色に近い色彩は、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は避けて下さい。

【8】 上塗りに黄色、赤色、青色、緑色系など彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、あらかじめ隠ぺいの良い共色を塗装して下さい。

【9】 彩度の高い色目は、退色、色むらが早期に生じることがあります。

【10】 旧塗膜の種類により、下塗材を選定して下さい。

【11】 希釈した製品は、保管後使用しないで下さい。

\*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照するようにして下さい。